



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 300

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

(問) 戦時中、母は都立第一高等女学校に通っており、長野県白馬村に疎開し現地の工場に動員されたい。母が思い出の地を訪ねたいと希望しているので、当時動員された会社名など情報が載っている資料はあるか。また、女学生の勤労働員について詳しく書かれた本もあわせて読みたい。

(答) 図書室の検索端末を使ってどのような資料があるか調べてみましょう。
まずは学校名で検索し、関連図書があるか調べます。

➤ **なんでも検索** ⇒ キーワード**都立第一高等女学校** ⇒ 1件ヒット

学校名で検索した結果、昭和11年(1936)頃に撮影された校舎の写真がヒットしましたが、学校の周年史や文集など図書は所蔵がありませんでした。キーワードを変え、図書に絞り検索してみます。

➤ **図書** ⇒ **ことばから探す** ⇒ キーワード**東京都 学徒勤労働員** ⇒ 14件ヒット

『東京都学徒勤労働員の研究』(210.75/Sa25 閉架一般 000038509)

こちらは当時の新聞、体験記、社史、取材をもとにして、学徒勤労働員の歴史や動員先ごとの実態などをまとめた図書です。索引から「第一高等女学校」について書かれた箇所を探することができます。

本書によると第一高等女学校では、生徒たちがいくつかの工場に動員されたほか、校内を模様替えて学校工場も開設。無線機の組み立てや携帯食料の包装作業を行っていました。しかし昭和20年(1945)3月10日の東京大空襲により校舎にも被害が及び、動員先の工場も全焼し工場疎開を進めたのを機に、生徒たちも一体になって疎開することになりました。同年4月以降に長野県北城村(現・白馬村)に疎開した会社は葛原工業で、三年生以下の生徒が動員されたことが分かりました。

次に、女学生の学徒勤労働員については、本書にも詳しく書かれていますが、他にどんな図書があるか検索端末で調べてみましょう。

➤ **図書** ⇒ **ことばから探す** ⇒ キーワード**勤労働員** ⇒ 670件ヒット

670件からさらに絞り込み検索をします。⇒ **ことばで絞り込む** ⇒ キーワード**女学生 少女**

「いずれかのことばを含む」で検索 ⇒ 126件ヒット

検索結果のうち、閲覧室の書棚にある手に取りやすい『少女たちの勤労働員の記録 女子学徒・挺進隊勤労働員の実態』(210.75/Sa28 開架一般 060001014)は、戦時中の勤労働員を全国的な規模で明らかにしようとした図書です。動員先での作業内容や衣食住などについて、女学生たちの体験談が充実しているうえ、動員期間や動員先を学校ごとにまとめた一覧表もあり、都立第一高等女学校の生徒が白馬村の葛原工業に動員されていたことも再確認できました。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

梅雨を乗り切る洗濯の知恵

じめじめした梅雨時、洗濯物がなかなか乾かず苦勞する季節です。現代ではドラム式洗濯機、衣類乾燥機、さまざまな種類の洗剤など洗濯に役立つ製品が充実していますが、昭和30年(1955)頃の家庭ではどのように洗濯をしていたのでしょうか。その頃はちょうど電気洗濯機が家庭へ広まり始めた時期でした

国産初の電気洗濯機が登場したのは昭和5年(1930)でした。攪拌式とよばれる洗濯槽中央の翼を回転させて汚れを落とす仕組みの洗濯機でしたが、とても高価だったこともあり、普及しませんでした。

その後昭和28年(1953)に噴流式洗濯機が発売されると、渦巻き水流を起こして洗うこの洗濯機は、使いやすく攪拌式よりは価格が手頃だったため、洗濯機が家庭へ広まるきっかけとなりました。しかし、当時はまだ各家庭に行きわたっていただけではなく、昭和32年時点でたらいと洗濯板を使用して、手洗いで洗濯する家庭が8割という状況でした。

さて、それでは当時の梅雨時、外干しできない時はどのように乾燥させていたのでしょうか。

「梅雨時の生活メモ」

乾かし方は風呂場等に取り入れて炭火コンロ等で乾かすことも一方法です。この際は洗濯物がおちても危険のないようにコンロの上部へ隔てて金網等でおおう等の注意が必要です。そしてある程度乾かしたあとは、アイロンで完全に乾かします。

『婦人朝日』第9第6号 朝日新聞社 昭和29年(1954)6月

たとえ金網で覆っていても、洗濯物を火鉢や炭火コンロの上で乾かす方法は火災の恐れがあり、危険ですね。

また、雨の際に干す場所を増やすための様々な工夫も紹介されていました。

「軒下の物干場」

まず軒下に、腕木を出し、ビニールの物干し紐を張ります。これだけでは雨にたたかれますから、針金を通したビニールのカーテンを垂らします。(略)雨のときはもちろん、晴れていても紫外線を逃しますし、また白いものの芥や煤煙よけにもなって重宝します。

「狭いところへたくさん干すロープの張り方の工夫」

対角線に張るだけでは、少ししか干せませんので、(台所に)ジグザクに張ってみました。こうすれば敷布のような大きなものを干しても、場所をとることもなく、炊事のときの熱で、乾燥も早くて助かります。また来客にも気兼ねのないのが何よりです。

『主婦の友』第39巻第6号 主婦之友社 昭和30年(1955)6月

家庭用の衣類乾燥機のない時代、住まいの造りや身近な道具を工夫して活用しながら、梅雨時の洗濯を乗り切っていたようです。

【参考文献】

『家事 KAJI』(590/L75 開架一般 000063174)

『昭和館 常設展示ガイドブック』(069/Sh97 紹介本 060010010)

『くらべる100年「もの」がたり1家庭の道具』(382/N88/1 開架児童書 060005507)

『婦人朝日 第9第1号-第6号(昭和29年1月~6月)』(C051/F64/9-1 地下書庫中公新社 180001030)

『主婦の友 第39巻第6号(昭和30年6月)』(051/Sh99/39-6 閉架雑誌 100012604)

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 300

2026年6月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1